一雅話三笑

全

へ九六五五
一

12

へ13
1984
14

1984
14

正

序

はるゝけいよりとまれるこゝろ
ハルドー一枝
あゝ雅なるこの中世歌人の
きゝもの情趣の中なる
わ愛を方まこゝろ
新思夢抱一
生のゝ花のゝ合

長嶋町五丁目
大野屋惣八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京伝門人　曼鬼武述

七種粥（なぬかがゆ）

女郎（じょろう）二人（ふたり）より聴（ちょう）しく時（とき）は

正月（しょうがつ）七日（なのか）ごろ七（なな）くさの草（くさ）をたべるそんざ

と言（いう）さんが出（で）のひなんしらみよりうつる歌（うた）

うつく世（よ）のひしくさ粥（がゆ）を着（き）んさ

かたべて世（よ）をんしらみ○そりやアよりおろ

せう去（さ）ら形（かた）付（つけ）る西（にし）の日（ひ）にしよう

二ハとくゑ子〈なぜ〉〇ハテ高ちゃ七
精深より二ハ多く若男性でおつた
〈ヲヤ〉そんなうれしと高ちゃ二人へ
せろ二十八ゑくあるんとヨシ

小町

ある娘大阿ぐさるれどうめぢゃでは、
沼無乃ワひりの死ありュれたきらさん

乃小田撫ごの恋ものとなるつさうノ乃ん物
にいつぶ物乃ごゑ恋しんのんざと紀ホ
物人せざごよといんで。娘ホとく姓
ごしアノ小町さんが高ちホごろ紙ん
ゐイ老屑毛の元さ而ぶ

壬生

酒屋の楊枝壬生狂ホうさゑ狂

とつ〻人を引こうと拍子ぶのようにふり
廻、同つれをもとりかゝれば、こゝ人
は氣遣うこゝ中りひ、何のまの抓ぐなどゝ
いひながら、拍子ぶりけく面白くなし、
兎角人家わをふしてゝ拍子をうち
ぬうら今度は太鼓おもふせんと振飯
きくなとゝびきてもふ見る所つた

同じくまりつけ、ぶ大いにきり飯
とうんと花ざうはもとを尾ゝ振ろう、
もぐさをもしよくあまり面白きふ所有
たつきふうれと思つぶ大乃屋氏一つを
きくれだ大を氣遣迷ぶ、きゝん
ち義くきゝん

三生相会大雑書曰、雑集抄に云、人
名 烏帽子を要望云、男女を這のん
どゝ云る本戸中間に札を買て くゝとつゝんだ
イヤ打ぬ三生の患見しやうそぶと
這へ入うゝ、のきれて居れて一人烏帽子
亜意云、男女相り様を玉と札を買
這へ本戸書本に何のことを合点ゆゝと

いゝで中に三人の本戸書ゞとめて
何の様い三生はたゞ力んん様へ指ゞいう
〇宿名 剣術 △亭主
時ふ求馬殿さうをくゝ和来剣術
ゞけやり物もてこれ書たれ三生
ぐゝり抜んい美ふを指ぬ同こ和
へく雑三志ゝ年雑書て抜音物

つる出傍くまで山猫いちりかうも止まと
くもうとと綱へ結ぐ廣くこ海とぐぐふ
も知ませれ出るまちあもとのの広ハ一面ば
お知るもよりー嘘出猫成こ出ぬらう△
こハ出ぬ出ぬ出ぬ出ぬ出ぬ出ぬ鞍馬
こあれ出ぬく備正坊丸弟子ぬ奥成
ぐゆうされて正○見笑丸ハ市海さ

お招かう幸ハそ小出猫ぬ出られ
△ハ出ぬまうこも廣ハそ出ぬ出ぬ出ぬ
抽ぬハ廣ぐあらぬまハ○ケ招ふ
比ハ生丸出廣紙おまーてハ△イヤなんとも
ぬ廣ぬ○又毎ハ出ぬハ忘成
打海てハ△イヤモいくらおもても海と
なんとをぐぐらぬ見と塔る而ぬ傍坊

乃傳史事○ハテあやまり八海ーさ

問 △女房 ○源人

さる源人今こそ絶世なりと剣術
指南をかりさるぞ貴子が付そ、
ゝる人組紙つゝはけもべ品業してゝく
淋しそゝる人乃氣ゐぐつる名ゝまゝる
女房ゝ和歌小子朔ゝ月雪をてゝ武

合く所既女房ゝ△いろそりゝ
たゝ力と指らゝゝと四所りゝ源寄ぬそれ
綱のゝゝ切せゝぐゝ波△源と流く
一上腰ゝゝ猿ゝすゝぬゝ
仁学 △野良 ○友達

知ゝとゝゝゝゝきゝひか野名ゝ
ゝゝく△抽ゝ今日ゝ和道ゝ

の[illegible]乃謙釈氏[illegible]
[illegible]
[illegible]時[illegible]
[illegible]兎[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大さ[illegible]○それ[illegible]
[illegible]
[illegible]十二サ[illegible]
[illegible]
ざ[illegible]

柱[illegible]　虎丸
○元食
[illegible]大[illegible]播[illegible]扇子
[illegible]世の中、瀬戸虎丸[illegible]柱

ぶ神の門に荒ふり人おりぐるを
くる○私い狂式式一口絹まるぶ時分
ぐる出雲下されまして経冊を出し
ぐる出て辻つまを合わせぶ世渡りや
徳乃以人の経歴対答△ハア編おりぐるが
ぐる人を食此相とうぐ清つぐる○
イヤ癒うるぐ者ぶが病ぐいぐる典

なりませぬ
狗赤
誠に再び乞婦いりぐ狗出ぐ
疫神小宝さるぐの治天竺徳ぐ清
もいかれ氣あるぐ工まーりぐ乞婦おい
いぐく病人乃時ぐ急氣狗おぐ疫人疫
病祈ぐ生合ぐさ治疑氣狗出ぐ

てん きうと福神みはあふかうらんとさりく
数とつりに中酒うう永久揚の名一めく
舟紙お兄絵とりりが目れしるまど
福神ら又くとどう紙屋り兄身は城
ゝ今やくと傳てあるとやどく神先
の方で始る声戸あてモンしくとつのう
そりやくて福神よりく約年投拾年

仕とれば弁慢功が高賣の邪ヂよなり
まくくどみそ外へ漕ぐりさりやし

検絵

検絵揚毛而ふふ着板の絵ふと
立寄が同口ヨ戸ふすれ玄関見物
ゝとどくりく這てて対ふ五れば八
要数の男ふたりと一五ふふくあるた次

の果ゞ表居と鴨居乃紙潤て出ぬ
ゝ水とそ〳〵感心しまつるを
取次小向ひ先生海玉篇ぐでざるゝ
しるゝまゝ只今仕廻の桶紙作然
ゝ水とまゝ御ゝと居そんゝ法新造掛
江戸あかりたゝとゝ
ゝみ〳〵奥〳〵這ゝむやゞくれ新造ゞ出

九

まゝ紙ゝれゞてすゞ

仮宅

浅草の御釈迦様国宝そ出立
出ぬゞゞあさ面たゝ出ゝ〳〵ゝるゝゝ
出ゝ〳〵合せかゝせそれ和尚様の和撥そ
合同乃清紙つくゝとの洋ぐん見ゝ和ゝ
ゝゝ〳〵人和のゝんゞおびたゞ晩和撥

の思ひとつゝ和歌を嘆くに堪へられそうなる
乃紙脱すて投げ捨てと振り返り見て和合を
とゝめくに花を思ひ出の面影忘れ
栗俳
淵のぞめたる者を仕はし
やうとあひめつふ人が投げ捨てゝ
ぶつぞ弱さを仕掛投げ言葉紙を

十

と大乃中世年代と俗ふつぎと近
きゝゝもひるぶゝ紙ゝとすると伝猿蓑
有わゝいゝ又刀紙ゝとゝ
ゆゝくゝさんゝゝ友達の間人迎ゝも友ゝ
よゝひやゝぶゝぜゆげをゝ人ゝ間ゝる扇ゝと
又ゝゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝ
布袋

十一

日ごろ世布袋さまを見くもづらく
ふり回をあそこ神社四国寄とこ方
福神仲間ごとこ船ゆひさそく生年
八法まうれ人れこ年小貧乏かの和
ふなるこいの事ゆあるものか弁一口もこの名
ごとこそこ小八別しく紙織の事すよ
こ様の本仏ごこ仏まこさてこのだ

布袋見小

三左衛門

八王寺の三左衛門年ゆ法ぶく立
面ごよんの人者糸へ女郎買ゆ出ける
揚屋の門口モレ出女ごと弐百ふん
かさろ口ものイエこちれ内ゆ神でる
女ごうら瓜ごごりやせんとこくだ

ひぎ
男ぎよりこしにべろ

役者　○母
△子

役者くるしき声のかれやくしやいこゞ母
ふむひ　△アノおくさんハ警ハ出しまつりゆく
シクサ　今での見れ出さ△それぐも海老さん
の所ぐけ役者酒ぬやうさうおくさん
い湯の方ハ出つむりぐり出くハ出あるき

まやうさぶなぜ去の中れ役者ハ出あるき
紙袋○ナニサおくさんハけんのん病ざうョ
和尚

小僧　アノおせ元きゐ乃ぞ門ぜんの
穂屋ぐ弁天様の中ハ大黒ごと
まハよ和尚又とつけわれが役者ハ袋
乃ぞにして見せ

同

かの和尚物乗大よ酒けゝ末魚紙貸ゝ
蛋乃紙ゝ世間ゝ流れて流めゆ立夫
く小僧紙よび木魚ゝ木魚ゝ紙ゝ
ゝ何ゝ和尚ゝ紙ゝ
たゝのやゝるゝぞゝを引ゝ
乙魚紙ゝ

と和尚よりこびりるそれよりをみく
巡業してそ後の物乗すゝびゝ
をしてを出びなゝねゝゝ
そ後ゝあの紙を貸ゝと一
人つ酒やけゝ小僧ゝ
紙ゝ魚紙ゝ

酒宴

ぞ　ゝらく和尚と腐儒者との大論
あり、和尚しやう頃破所いくつとなく
和尚は百味の飲食を有なが海
蔵のあぢいやうらぬけきと和尚
ゑんと先生はさけかと有ぶんをのハ
なひと移れ出釈迦如来もてこれは
上戸と見へく去姉に義はゆ中とは

ぶるまうとしを若いうさま見下れ侍のとをり
孔子を酒ふ酔ふくふぶけさをやつとを見
へく子のくくとゆ
ス

一女郎
○きやく
蕣
〈女郎
客をつん須女らもけんがで紙ふが色で
互ふきと振ぐ産もすゝ家〈をり
〈ゐ〉ゝらぞとそ〈○さひん晩ぞよ

△ウリ〳〵ごりでアんもさまうざ

元筆　△都の果

○巳邦

△り旦ハ稼へ仏を引らうじませ○ドレ

さそ〳〵横ゆく仏手ちうど△イエ仏ちう

字成大篆字ちでかうちゃは

さ○れ〳〵れ鳥ぐサレハ威徳寺くふさう

ゆれ

菜

きんぐさの

を玉伝江戸へ出稼ゆむ

小ゆ〳〵すると舟出岩ハ陸ち来ぐ

ナンダ者邪ぐん門ぐんたぐん

ハ〳〵返魂丹ハ形ざる

交ぐと

いぬ紙田ぐ〳〵男たん氣ぐ

ぶんこう紙せっぱ、はさみ、しゃ、巣の低をとる
しゃ、ちゃ小新ちんて付巣紙してを
取出義者の面(ゆきいめ)ぐらまきて
まくべ十ぐらくるまふくめてふうめと
いやゆ部さる製はめがつちゆ懐く
うんでもん布とめけやりとめとと、
まづ布て紙切くり面ぎきる

袖とひれ夫ら小指紙切くそ
ちまりさと味ゆのつく付巣の落ち
ちくべやうやくれ付巣ごしる
さんさんれ胸して指く刀その間
星も切くちさ

香瓶

頼朝公御松義乃御子かうちが紙

法ハ一生ハ世番頭あづかり　打出方を以
まろさを　志書あつく　所々と重忠の仰の知恵
ぞうり　儀式ゆゑ　度間へ　出なく　ゆめて　物ゆ
ゆゑ　打ぐら　柳ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ
ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

ゆゑ

哥人

人丸様の世歌ハ　雁ハ　ハ　ハ
奥ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
之様　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
世　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
さ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
て　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ま　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ゆゑ女中からソレハいろくもおれど始末者
でごぜんをとこいの貝雇もさとびに入まる孫
のゆゑ〜きごとんやうくまより中ゴ
郭風俗調くゝ徒を大勢車座ゑ
び壺四を順ゴ〜長歌經哥

居續

此以息子一刀屋〜ゴ女郎を出して毎

日出るゴ〜ごけ出〜迎ゑ出ゴ〜ゴ〜ゴ〜
親父大ゴ腹ゑ立自身ゴ一刀屋〜行ゴん
でゑ宴〜出ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜
ゴ〜ゴ〜上ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜侍て
居ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜
出ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜
ゴ〜ゴ〜息ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜ゴ〜

ふりくとゝの〳〵だ大勢がこゝ打ちうつく
とくや〳〵立ちあがると抱きの面白さう
親父もうち続く 時いつぞろく
振袖
醫者乃若衆夜まゝ時分大ふれだけ
てゝ小便ゆくとて、供部屋のうち可
しに何ちうちうつたあるに沙汰とまた

てこまゝ振袖とあり続きうに見ふまぎと
又ぞろて見まゝ帯をとけゆこうろ
い有ぐらと云うう抱付ゝ部屋うう
陸尺がこれをさろ干てく垂さ看板
ふどろがうつ
貝焼
仕
卵ちゝ〳〵焼てこれだ立房と居ゆ

二、こうちり枝に貝をあてゝ香は
て居る亭主のかたらてのかたらに女房
とぶらやうゆむやうなりこゝてもまぐ
紙ぐるわやうそまとをぐれせたこんぐ
仲人親乃不人行より端ゝこれあべさん
ゆゞ中ゝくん祖父ゝ行ゝつが間ゝ祝
ちつく内ゝ居いわゞ横紙笑くうゝ

ゆゞくゝ貝焼ぐたのゝゝぐアゞかゝと
ゆゝれ人仲人ゝ祝ゝ祝いゝゝゝ横
い不淨ゝなゝゝ神さゝ人ゝ系ゝせゝ
ゞゝゝぞゝ仕ゝ師ナニサ手ゝ人勢ゝアゞが
ゝゝゝ陰ゝゝさ

編擬

仲師乃男之女ゝ付柳糸乃土と

てらの廊へいろく屋んてらと笑くてゐと
いひ合ひと三ぬかしまつ三ぬ去る廊
へゆきしに笑ものくなくなりと秋三ワゐ
しもしへ何らひ法けらまく賞ぬ
きまくこぶはるワとれまくうかん
ぶわくふぶうぞおそくて奏てくれる
しゐ上ゆ上ぬこれさい氣ちくふやゆ、

うそんちゆ笑ものぶろちぞうして
知ぬこれゆんぶ屋んてるゆ男ぶ三ぬ
うそ神よそへんてそ氏下さる

祈禱

新まゐ公伏おのれい大ぬたゐ氣の京
くゆ氏百人狐法義がゆうそ呼ぶくゐ、
ぬちうくゆて氏ゆ稚らしくたゐと

いのをかけあをどきろ孤つたとんと
たまるもあとあれ〳〵と居るかの夜
ろうぐわ今宵大汗くんくいのをくる
ふいよりくぞをまをくうあうぞ炭山伏
なんとあ伝がわかでりあくもあるさ
でわ〳〵ぬとんで孤きる麻あんまり
面白ろう関てかれのざ

琴曲 △見物
○むすめ
ふわしぐるくか
風見物ひとろ酒屋へもりとをど酔
て△コレ娘女ろるまはい琴れ名人のざと
ゆやさなんぬん不ちよりをやべる。アイ男り
やしさなんみ殺しやちよろ子△身ちは
ちなんちちりの紙れぞんどれ。
そんろう唄よいさやせよ表組ゆどん

いつれものくござりやう沢ゝの人ゞ△儀に
刀乃反紙うらかの紙鉄砲組とでも
ねゝしゝくゝ見あるを
あるを △あるを 別あ
國家老ゝ出し接たる夫どの〳〵厩別當
呼り出○此あ三」沢カげがお痛ます
新△ゝまゞ出屋ふ病人ゝ○イ上市五人一

義ぐ出たりまし△てサ女ゝ出ごゝゝ
ゝ下
御寺揉けうの見世よりと魚紙かく
して出合ぐゝらふさる檀方ゝ出ある
ちゐ出やゝ近んとさる紙親父引ゝ
出まゝさまゝ号ゝ和尚ゝ
ゝゝゝ是も如来揉ゝ敬ぐござるゝ

れるさまべさこ亥ハ仏店と十ゆへ備るが
綴りとてござれバ些様の世ゥれ文盲な
年寄ハ此世ゥかみぞうん活如来ハ志い
まいと理措ホきゝ活中くまゝ捗やぢ一云
もなく挑灯店ねかうへ逃て行
起情　△こゝ男　○友ぢら
△夕部ハ妙子女郎紙蜀て一まへ顔が跡

考ぐ眺が万菊で仕うぢり杜若とふ
りんでまうへハ何ぞよりくるひろが仕
○それハ柏を積るね△ショそれにおまつが
ぐりとりきあめしふたくく太尓のびが
て油とぞふ楊枝乃世うれがくるしい
まぐハちうくと起情の書てまてさ
こまと見ゑれ○ドレさそくけちなまざろ

うんざる一つも読れ(ぜ)〈〈伝さそもしに
集く出さのご
奴凧
行田金人屋ろこ凧う切もく落ち
村中打寄いろく評議されどの
けらば、主屋屋まろ振
何さもいはぬ戸出奴の千物といは

ヤアヨ村中ハテナやたこは丁ものを嗜
ヤスカ座屋ナニ奴くいぐるんぢは
戸のはの亭主ごこい心の神さくひわ
さ取げか
糸絵
固向院ふ寄ぬ凧ありくくんだもし
久秋ぐ絵んづる稲も一回さあさまや

子供に拵まかされうさうづく居の人
とて孫十六七乃よんむとあまりの
むすめとなりて同じ紙ちんきくしうりにとて渡わうり
袋紙をつくつるとして乃人とうさ
ぎにあまりの兎りをうれしたる
うりたるして屏風紙とそまり也

屏風紙表白小なきつさ
息子
万福長者の一番むとて兎角親仁
が女郎買乃邪魔ばかりをいふ義ばきうる黄撞元ふにてアとうり
御まの人拵へくぐよいうとうのくでざり
面と出んとれさ出陸ぐ左撞ふ結構

あへぬ[illegible]しなさけ深きそちらさま親
御様の御くらうの成やとわとものぞおやで
さまは御老命延まへさるの御
為ふちろしさ[illegible]れ物ぐごりほせわら
とゝんだ息子は乃うちぐちやく死べ
なとゝて

文盲

角力取婦舅のところへ紙まり
後だ隣家打年寄ゐ法んでゝふ
ゝ何くも帝をふく碁上手小余り
御意ゝ教ゆ百一寸直左右るゝ冷白
人屋ゝ戸ゐ角力ゐ世ゝらけゝひ十二
大さうらゝんあゝア四十年目ゐ石ゝ人
さゝあげふ

仁中

たゞとたるまでいろいろ別そあ、今を
沙弥と濃さ中とれ、深公紙遠
遠ゞ二人矢落しく漂枕
俗信指ゞ親くの耳入詮後
きびしきの法ぞうて海の事也
二人ふ紙とりかくふ南無阿弥

陀佛と作りぞ人婦ゝ也

口上

檀田原大納言殿ふ御石勅使之
遠ゞ仕ゞふあ仕度ゆ雅
堂勝ふ人ゝ出コレ今年の二年よ
そ殺ケ橋中納言様乃御一回形く
そ下さうゆ大納言殿ふ今ふ也ふ

石仏人ハ本尊と云ふべく居られ
げに〻石形〻〻醤油瓶の中ひとつ
ゆゝしき神仏といふべくこゝに
云付る三平物りし、花ぐ〻くに中絵で
屋へ帰り、ちと出頼ゆまゝ次こちの大納
言殿只今毛ゝ飯ばくれ食事を
いゝ死ゝゝ居られ寺に十こんば

それハ笑止や御勝ぐるまであらう三平
何さそまふまぐ蒟蒻ぐんひ
浅草
考ゆ者二人淵源観音へまゐり天形の
酒とカハ〻〻コレ捨やあの仏人ハ〻書
じや〻稲人ら捨ゝ文育れ所ぐ
ゆまいい仏人でハ稲人天神とゆんぐハテナ

ばくふから天神とあがめ奉屋の事ど
と申ふ

茶合

蔦西乃ひて舟みく一人の僧出来り
むかふの出僧いづくにさてゝ
るされで出家いや西僧へ公貧和尚
ける貴小六祖をとびて人名僧ゝす

より取りて彼くに来るまり仕ハ二ノナ
六そう乗ゝさてゝ名僧ゝ事
ばやうれ武門ゝ義經公
八艘とび入ゝ事ゝ
ばゝゝゝゝゝゝ
乃ばさゝゝゝゝ
江戸ハ御ふて出ゝ

こゝ中ほど

両遠

どんぐん自分屋ふ大屋敷ぐらり合てゆるだる道
イヤ時ふわの紺屋ぐんむとあゝ今年ぐらい
ぐらぐらり男ふいやぐ行くあるぐら
してもふ小野、小町ぐらうとこ行く気ふ
と家たらぐ力く居く扱へたらぐ婿

ひる女とび小野、小町といかのゝこうさ
よりの成同ぐり友なふあるあ自分
せんと思りひそれぐり屋ぐらんやとも
裏居ゆれいろくぐれしたらぐ
時り此近慶ふ男ぎぐむぐ女ぐ
のぐさらイヤそれいこうわが湯屋ぐ親父
どのゝ古しこ三十九ぐ行るぐあの

人ハ口ばしはなしなどなれるべ
番ちんぶくりはちまきちぶたきり
せんてんぐそれをかぶり道風にらり
△山方
雑階○そうり
細屋敷の飯焚ごとるもの飯炊と小家
ぢ引ものもの△時ふおっぐ足郷い雑階ぐ
たまたまぐ毎日ちり合くはちまの行ら

もとゝなる好者ばかりでも調ら
て見くゝ居まぐ又接別ものんざなん
一命をうさまぢやわれくらのこゝろのようふ
先見秋ういもの△イヤまづ口まこゝいへ
○そんあうあり引きくゝ口ひんぞろ
うう向に出とぐえ「ひう勢よ横だうぷう
乃家さゝれ△ナに感吟ぐ出名そナ○

晒落本類目錄　江戸通油町　耕書堂　蔦屋重三郎板

傾城買四十八手　東京傳作　全壹冊
きゝと女郎のこんたんをとりくゝふして世わたるさとしなり

小紋雅話　同作　全一冊
世毎のきゝ紙をたゝそ小もんみして右まゝ紙そのはゝ

新造圖彙　同作　全一冊
きんのうづいふあるひて世乃いきとする所紙當ふなり

通言總籬　同作　全一冊
ちゝつゝ風俗并に女のつねゞのこゝ紙をくゝたゝ

百人一首式子内親王馬庶講釋　初夜物　同作　全一冊
百人一首の式子鄙俗のこゝ紙をどつけて行ゝ式子泊てゝ

傾城雛鑑　同作　全一冊
京の宮人程女の藝能紙記もち自筆并に中級人級之紙をすす

右原湯枝　同作　全一冊　けんせい賞の極ひでんきゆくと女帝のこころえ伝をろす

客無用無子　同作　全一冊　わらんかの新造売すしの風俗云禁づひつきゆくけさ物ゞをろす

小紋新法　同作　全一冊　世ふかゆゆ扱ーき物伝こん物ちらをれくふちゆと云を加ゆ

三教亀　唐木桑和作　全一冊　神信仏のようなうなびふそてびづひれ拾ゆを出ゆうん

和唐孫解　同作　全一冊　長き伝の女帝賞のこれを使ひ長に長きき羽産事伝をろす

媚姫地理記　喜三二作　全一冊　右原八丁町伝万国ふ出ゆて産物ふ伝扱ーこふ来ゆる彩り

柳巷化言　同作　全一冊　けんせいのゆゆーけゆるれてふいひたるを出ゆうて奥ゆる事あり

氣のくすり　同作　全一冊　ひきゆれゆーゆ彩ーー伝ゆず

野夫獲　全一冊　かぶいしゆれ穴伝ことぐく出ゆせ

産腹筋三略巻　全一冊　産表拾びのそーき伝ゆすぐ

胃我糠袋　全一冊　ふゆーいー伝拾出伝をゆる

手管智恵袋　全一冊　けんせい賞ゆーれこんどそがのきゆうげんふゆぞーて作ゆる

滑都酒美撰　全一冊　女帝のこゆゆひ伝ゆ分ゆく氣ぐられてこと伝つぎふを伝

彙軌本記　全一冊　けいせんを中れ町ゆそも伝産れ拾ゆこつ伝そのまゆをゆ分ゆ

山東京傳戯作

犀鄭　五十八年後編　全一冊　初編ふゆ出てる彩ゆ伝ゆくゆつむ

辰巳新話 仕懸文庫 全一冊 ふる川の当世入ふうもようをあそびをもって
傾城貴賢学問 全一冊 ようようなあそびの極秘をもって
滑稽物語 嬉遊笑覧 全一冊 まことはめっぽうきいも向のあそび事をもって
地者八景 全一冊 地色の方面を一流八人へいれんうそうりう
懲俳優細見記 全一冊 右原細見ハ芝居役者の事をもっぱらくわしくもって
雑誌紙屑籠 全一冊 これまでまとめて当世の人の悪ふざけしる事を記す

右之通刷板仕候追ッ出来
申ハ出来ハ仕候ハ

書林 江戸通油町 蔦屋重三郎